

# 館 報

# お お く 寺

### おもな内容

- 2面・・・大野駅と頌徳碑
- 3面・・・教育長就任の抱負・文化展
- 4面・・・特別功労者の横顔
- 5面・・・進路指導・幼稚園児募集
- 6面・・・学校訪問・感想文コンクール
- 7面・8面・・・みんなの広場

発行編集 大熊町公民館  
印刷所 新栄社写真美術印刷



## 体を鍛えよう

健康な体を保持するには、日頃の運動が大切である。大熊町では昭和四十九年度より町民の体力づくりの場として、中央台一帯に総合スポーツセンターの建設にとりかかった。

町民体育館の建設、つづいて今年の七月には、増健センター（サーキットトレーニング施設）がオープンした。センターには、全身の筋肉を強化することのできる、ダイナミックトレーナー、身体部分マッサージをするヘルトマッサージャー、自転車のペダルを踏むことにより脚力を強化するヘルスキング、血液循環をよくし疲労回復に役立つK.V健康器等、約十四種類の運動器具が備えてあります。とり過ぎの方、運動不足の奥様方、是非一度スポーツセンターでお試しください。

（写真はトレーニングに熱中する奥様方）

（写真はトレーニングに熱中する奥様方）

# 走り続けて七十二年 大野駅

電化された現今、「SL」とか「デゴイチ」の愛称で蒸気機関車が懐しがられていますが、明治三年に起工し、明治五年十月十四日新橋(いまの汐留)から横浜(いまの桜木町)に、わが国最初の鉄道が開通して、今年で百四年になります。

常磐線は、二十六年遅れて明治三十一年八月田端・岩沼間が全通し、明治三十七年十一月二十二日大野駅が開設されました。今年で



七十二歳となった訳です。鉄道の開通は文明の進歩に対する国民の眼を開かせ、近代日本に発展する出発点であったのです。白々と光る二本の鉄路は、天文学的数字と云われるであろう人物を移動させた価値ある歴史を誇っています。そして駅の存在は、その地域発展への玄関口として限りない役割を果たしてきました。大野駅もご多聞には洩れませんが農業型態の変革や他にさきがけての文化の導入等大野駅があることによってもたらされたこの地域への恩恵は枚挙にいとまありません。そして又この駅にまつわる喜怒哀楽の想い出が、ここに住み、訪れ、去った人々の心に何時迄も残っている筈です。

反面、戦時中敵機の攻撃目標にされ、木造だった跨線橋西側の階段を失ったり、附近の住家に銃弾の雨を降らせた苦い歴史も保有しています。しかし乍ら人々の生活の上に、大いなる利便を寄与し続

けて来たことは何人も異論のないところでしよう。七十二年間の駅を守り続けて来た人々の変遷を知る由もありませんが、四六時中、一日も休むことない鉄路と共に過ごされた数多くの職員の方々の足跡を偲び、功績をたたえ、今改めて衷心より感謝申し上げる次第であります。技術革新によって、石炭から電化へと鉄道動力の変革はなされたものの、戦後道路網の整備が急速に進められ、鉄道にとってかわる勢いで輸送機関が、蟹の手足をもぎとるように鉄道業務を縮少し、人間の底知れない文明への挑戦が、何とはなしに苛酷に思えて

なりませんが、更に国民の足として、親しまれてゆくことでしょう。大野駅に掲げられた「下野上宇大野二四五番明治三十七年十一月二十二日開設・海拔六〇・六五八M・東経約一四〇度・北緯約三十七度二四分・東京へ二六三・七・仙台へ一〇二・八」の表示が何時迄も存続してゆくことを願っています。

大野駅前広場の一角に一基の頌徳碑が建っています。昭和二十八年の聖徳太子祭の日に、大野駅の開設五十周年を記念して、当時の大野村長齊藤・正氏が発起人となり、大野駅開設に貢献された石田茂宗翁の功績を後世に伝えるため、村民有志の寄付によって建立されたものです。

このような駅にまつわる碑は、全国でも珍しいというのを聞いておりました。あそこに立寄って碑文を読むという事は仲々難儀なことと思いましたが、全文をここに掲載してみました。先般他界されました新山の半谷広男先生が書かれました。

大野駅前広場の一角に一基の頌徳碑が建っています。昭和二十八年の聖徳太子祭の日に、大野駅の開設五十周年を記念して、当時の大野村長齊藤・正氏が発起人となり、大野駅開設に貢献された石田茂宗翁の功績を後世に伝えるため、村民有志の寄付によって建立されたものです。



石田茂宗翁ハ天保四年四月三日新山村志賀直庸氏ノ三男トシテ生レ長ジテ大野村大川原石田自閑氏ノ養子トナル資性温厚外柔内剛身ヲ修メ家ヲ齊フルニ勤儉ニシテ卒先躬行所信貫徹ノ人徳望近隣ニ聞エ明治二十二年七月町村制施行ト共ニ本村初代村長ニ推サレ明治四十年十二月迄実ニ五期ニ互リ村政統理ニ尽力シ其ノ功ハ枚挙ニ遑非ズ特ニ鉄路開設ノ議起ルヤ村内賛否喧喧タルモノアリシガ翁ハ夙ニ趨勢ヲ洞察シ欣然鉄道用地ヲ寄進シ地方発展ノ基点トシテ之ガ実現ニ尽瘁シ所有障害ヲ克服シテ路線ノ敷設ヲ見明治三十六年村会議員ト共ニ停車場ノ誘致創設ニ奔走シ遂ニ同三十七年十一月大野駅ノ業務ヲ開始スルニ至ル地方民ニ幾多ノ利便ヲ供与シ今日ノ駅前繁栄ノ基ヲ築キ将来ノ発展ヲ約スルニ至リタルハ偏ニ翁ノ先見ニ依ルモノト言フベキナリ

茲ニ停車場建設五十周年祭施行ヲ機トシ翁ガ往年ノ遺徳ヲ忍ビ地方民ノ浄財ヲ得之ガ頌徳碑ヲ建立ス因ニ当時ノ大野村村会議員氏名次ノ如シ(議席順)

佐藤義信 武内賢茂 門馬松五郎 小山軍之助 吉田定保 石田朝宗 石田敬宗  
木幡清源 渡辺薫綱 石川義直 渡部知綱 堀川徳太郎

昭和二十八年四月十五日建立

# 教育行政の推進に当つて 教育長 太田芳一郎



去る十月一日付をもちまして、教育長に就任いたしました。今後微力ではありますが、教育行政に全力を傾注して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、前教育委員会並びに吉田前教育長さんには、幼児教育から学校教育の面、そして社会教育、更には芸術文化の振興策など、それ等一つ一つを大きく取り上げ偉大なる成果と、足跡を残されておりますことは、真に目を見張るものがあり、その業績に敬服しておりますのは、独り私のみではありません。これ偏に大熊町の教育行政が、町執行部と議会、教育関係者、且亦町民が一体となった姿の現れでありまして、この町教育行政を担う職責の重さを痛感し、力の湧き出づるのを覚えるものであ

ります。私は、九月まで双葉地方広域消防に勤務いたしました、広く郡下の町村関係者と接し、実態を見聞する機会が数多くありましたことは、私にとりまして誠に貴重な四年間でありましたが、その市町村圏組合側から、躍進するここ大熊町の姿を見るにつけ、大熊町民の高度な識見と燃えるような町建設の意欲を感じつつ過ごして来たものでした。この様な希望のあふれる大熊町に帰り、そして大熊町政の一翼である教育行政にたずさわれる事は本当に幸福であると思えます。五十一年頭初において、当教育委員会は、統合中学校の建設整備をもつて、一応当面の山を越したとし、五十一年度以降におい

ては、大熊中学校の内容の整備充実、幼稚園の建設整備、各種教育機器の整備、現職教育の推進、そして社会教育の一層の充実など、教育成果の拡充と人間開発の万全策を重点目標にしております。教育委員会として、早急に、これ等敷かれたレールを更に増強すべく再検討を加え、現代社会に即応出来る教育、そして、心身に豊かな教育を押し進めるため、今後、大熊町の行政の進むべき姿を着実にとらえて、それにマッチした教育行政を推進して参る覚悟でありますので、今後共よろしくお願いを申し上げます、教育長就任のごあいさつといたします。



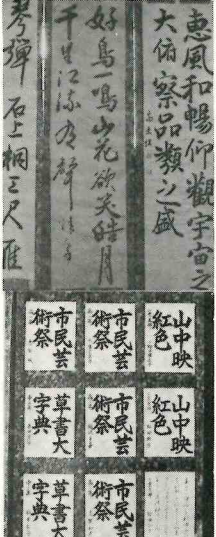
## 文化展 立派な作品がずらり

昭和五十一年度大熊町の文化展は、町内文化団体並びに小中学校等の協力を得、文化の日を中心に十一月二日から四日まで、旧大野中学校体育館においてにぎやかに開催された。

や、今年の六月に初めて開講した絵画教室の受講生、その他愛好者からは立派な作品が出品され、訪れる方々から「うわあ！立派」の歓声がわいた。

また、今回の文化展に協力してくれた文化団体と、その概要は次の通りです。

- 大熊町書道教室
  - 成人の部(墨雅会所属)
    - 会員 二十三名 毎週金曜練習
    - 講師 井戸川佳正先生
  - 学生の部(書典会所属)
    - 会員 二十三名 毎週土曜練習
- 日本習字教育連盟二葉支部
  - 会員 五十六名 毎週日曜練習
  - 講師 枡沢亀助先生
- 鶴心書道会大熊支部
  - 会員 四十一名 第三土曜練習
  - 講師 井戸川佳正先生
- 四葉書道会大熊支部
  - 会員 三十五名 毎週日曜練習
  - 講師 石田ミツホ先生
- 大熊町絵画教室
  - 会員 十六名 毎週土曜練習
  - 講師 木村 玄先生
  - 講師 佐藤 功先生
- 大熊町盆栽水石愛好会
  - 会長 常盤利昭
  - 会員 三十二名
- 大熊町保育所
  - 大野幼稚園
- 熊町幼稚園
  - 大野小学校
- 熊町小学校
  - 大熊中学校



一文化展に出品された作品の一部一

## 学級だより

- 青年学級(会場 大熊公民館)
    - 日時 十二月二十五日午後七時
    - 内容 夕べの集い。
  - 婦人学級(会場 大熊公民館)
    - 日時 十二月十一日午前九時
    - 内容 交通災害と責務。
  - 高令者大学(会場大熊公民館)
    - 日時 十二月九日 日午前十時
    - 内容 地域開発の現状と町政の歩み。
  - 家庭教育学級
    - 大野(会場 大野幼稚園)
    - 日時 十二月十五日 十時
    - 内容 知能と栄養
- 各種講座は従来通り実施いたします、詳しくは公民館へ。

# 特別功労賞に輝く 前教育長 吉田農夫雄氏



前教育長、吉田農夫雄氏は、去る九月をもって任期満了となり、教育長の職を退かれ十一月三日「文化の日」に、町の特別功労者として表彰された。

吉田農夫雄氏は一身をかえりみず自分を犠牲にして町発展のため社会教育に、そして学校教育にその半生を捧げられた人である。昭和三十一年七月、大熊町公民館主事として公民館に勤務して以来、青年学級の開設、婦人学級の開設など、その業績は誠に大きく枚挙にいとまがない程である。更に民俗資料の調査を長年にわたり続けられ、遺跡のある所には自ら出かけ発掘するなど、多くの資料を収集保存し、これらに関する資料も多く残されている。各地区の郷土誌や人物誌、民話などを集録しており、残されたひとつひとつの資料を読んでも、吉田農夫雄氏でなければ成し遂げることができないであろうと思われる

ものが多い。

昭和四十七年十月に教育長に就任、その後、教育全般に掛けた力は大きく、幼年層から老年層まで中広く徹底した教育の輪を広げた。社会教育においては、青年教育、婦人教育の充実はもとより各種団体の育成を図り、また、学校教育においても、統合中学校の建築整備に全力を注ぎ、一方幼児教育の振興にも重点をおくなど、教育全般にわたり貢献された。

穏やかな雰囲気の中にも厳しさを感じさせる人柄、反面厳しさの中にも周囲の者を吸い寄せようとする何か不思議な魅力を持った人である。現在は健康を害し入院中ですが経過もよく、退院後はまた町内や県内の遺跡を巡り歩き、更に深く研究されることでしょう。そのためにも一日も早く健康を取り戻されることを祈りたい。ここで在職中の主な略歴を振りかえってみようと思う。

- 昭和三十一年七月 公民館主事発令
- 昭和三十一年九月 公民館第一号発行
- 青年・婦人・寿学級の開設
- 昭和三十三年七月 社会教育主事兼公民館長発令

- 昭和三十三年八月 大熊町公民館建築落成
- 昭和三十五年十一月 福島県優良公民館表彰を受ける
- 昭和三十八年十二月 福島県教育長より青年教育功労者として表彰を受ける
- 昭和四十年四月 双葉地方公民館連絡協議会長に就任する。
- 昭和四十一年四月 福島県公連協議会副会長に就任する。
- 昭和四十六年五月 大熊町公民館建築落成 (鉄筋コンクリート二階建)
- 昭和四十六年十一月 社会教育全国功労者として表彰を受ける。
- 昭和四十七年十月 大熊町教育委員会教育長に就任する。
- 昭和五十年四月 大熊統合中学校の建築落成
- 昭和五十一年九月 退職

## 社会教育面から見た 変ぼうする社会

現代の社会は、いま大きな転換期にきているとも云われているがその変ぼうをよく把握し、家庭教育、学校教育、社会教育を含む広い意味での教育が行われ、その方法、内容、施設等を研究していかなければ、将来の生活に役立つ真の生涯教育にはならないと思えます。

先月、福島、相馬、平市で開催された、それぞれの研修会に出席し、学習の機会を得ましたので、種々の角度より見た社会教育の必要性をまとめてみました。参考にになりましたら幸いです。

- ① 経済成長期につくられた新幹線、高速自動車道、港湾、その他大型プロジェクトによる行政の推進等、これらによりメリット及び
- ② 人口構造よりみるとヤング社会より高令化社会へと、転換しつつある時期で、昭和四十年における高令者は、百人中六人の割でしたが、昭和五十年には八人、本年は八・一人に増えている。また、現在アメリカでは十人に近づいているようです。四十年後の我が国は、四人に一人が高令者となり、全体の二十五%を占めるともいわれています。特に今後はこれらに対処する問題が考えられなければならぬ。
- ③ 家庭と職場が分離され、人間

デメリットが生じ、身近な生活がこわされ行政への責任が問われる時代になってきている。(行政への批判、公害の研究)

- ④ 人間の性格は、二重性を持ち職場の顔と、家庭の顔とをもって生活している。(人間関係)
- ⑤ 地域連帯感の欠如。私には何のかかわりもないと云う、自己本位の考えでは生きられない。相互扶助の社会のしくみになっっているからである。地域の一人として連帯に支えられた生活こそ安定した生活であるといえる。(コミュニティづくりの必要性)
- ⑥ 価値感の見直し。人はそれぞれ個性があり、各人の価値を尊重しながら、他人に迷惑をかけずに生活することが理想ですが、ともすると金や物に支配されがちでありましたが、近頃では大切なものは人間である。金や物が価値のすべてではないと云うことが知らされて来ている。人間の条件はいのちと心の正常な働きである。心は常に平和、安全、爽快、利便、発展等を含んで始めて正常な働きと云われる。
- ⑦ 生活環境の整備、施設の充実。社会教育の理想である、誰でも、いつでも、何処でも行われる教育には、欠かせない要因の一つである。

社教指導員 木幡 キサ

# 建設進む

## 大熊中プール



大熊中学校の校舎が新しくなり昨年度屋内運動場が完成し、本年度は、学校プールの建設に着手、構造はアルミで、長さ二十五メートル、巾十五メートル、七コース更に、附属室は、更衣室男女、便所男女、管理室、機械室などのある立派なもの。施工業者は、神戸製鋼K・K(東京)で、十一月中に完成の予定。工事費は二千五百万円である。

# 進路指導にあたって

今年も進路決定の時期に入り、

三年生のひとりひとは将来への期待をかけ、目標達成のため準備と学習に励んでおりますが、幾多の問題点を抱え、希望と不安の連日です。私も教師も激励しつつ、自らも悩んでいる昨今です。まず、進学率が急激に高まり、「受ければ何とかなるだろう」は、過去のものになろうとしております。特に、双葉郡は男子生徒に厳しく義務教育化しつつ、ある高校教育を考えると、全入の実現を願

って止みません。

「高校を出ていないと、人生の落伍者になる。」とは、生徒の恐怖に満ちた声である。人それぞれに個性と能力があり、進学だけが人生の目標ではないが、現実の厳しさを認めるとき、複雑な心境の中で青少年の一時期に全力投球で難関にぶち当たり、勝利をつかむことも貴重な体験かと。しかし、点取りのへたな生徒をどう導いたらよいか。進路指導は教育課程の中でも位置づけられ、一年では進

路との関連で自己の理解につとめ二年では産業との関連で職業を理解し、三年ではよいよ就職や進学についての計画と選択の能力を高めることをめざしている。

しかし、現実には学力で勝負をつけるため、(選抜は点数を絶対視するのではないが)…。調査書も尊重される)入試に備え、補習や模擬テストもかなり行なっており、マスコミでも業者テストということで、話題になっているが、全県下が進学の資料として使用していることは、皆さん

# 体育研究会を終えて

大熊中 江又 トミ

私達の熊町小学校が、県の小学校教育研究会より、体育の研究校として指定をうけ、このほど、二年間の研究成果を、県下より集まった二百名の先生方の前で発表いたしました。

研究の出发点にあたって、いろいろな調査を実施し、分析してみますと、この地域の子供達は「球技や陸上運動などに比較して、器械を使用した運動が劣っている」という結果が判明しました。そのため、本校では、特に器械運動(とび箱、鉄棒、マット)を中心に、それぞれの運動の特性について研究を深めたわけです。

特性ということとは、さか上がりと開脚とび箱というそれぞれの運動を指導したり覚えたりする時に、

周知の通りで本校とて否定出来ないのが現状です。

就職については、まだまだ「金の卵」と称し、求人はいくつか、職種に限りがあり、中小企業の不安定も否めない。いずれにしろ、個性の伸長と能力の開発をアドバイスすることに進路指導のあることを思う時、親と教師と生徒の三者一体となった理解と相談の必要を痛感する次第です。

どんな点が最も中心となるか、他の運動には見られない特徴があるか、という事で、それをしっかりと把握して指導すれば、子供達の技はより早く上達し、体力がついていくだろう、という考えなので

本校では二年間、児童も先生方も一体となってこの研究を進めたため、各種の調査によりまずと、子ども達の運動の技能は非常に高くなってきており、更に、その結果、個々の体力も相当に高くなってきています。

当日参観されました先生の中には、白河の山奥の方から、ある日ばかりで出張された先生方もたくさんおられました。みな子ど

**昭和52年度 幼稚園児募集**

1, 募集締切 昭和52年1月20日(木)まで  
2, 申込先 教育委員会事務局または入園希望の幼稚園  
3, 該当幼児 4才児(昭和47年4月2日~昭和48年4月1日まで生まれた者)  
5才児(昭和46年4月2日~昭和47年4月1日まで生まれた者)  
4, 申込方法 12月末までに教育委員会事務局より往復はがきにて募集案内の通知をいたしますので、それによってお願いいたします。

も達の技能のすばらしさと、研究の結果の内容を高く評価して帰えられたようです。

もうひとつは、この学校の環境のよさにびっくりされた様子で、「まるで公園の中の学校のように」というお誉めの言葉をいただきました。この点につきましては町当局、先輩、PTAの皆さんの努力の賜と、深く感謝申し上げます。私どもは、これを機会に、更に努力を積み重ね、より良い学校環境をつくるとともに、子ども達の学力と体力の向上に向かって進んでいきたいと思っております。

熊小教頭 白土 博

# 学校訪問と終えて

本校では教育目標として、「創造性に富み、主体的に実践する子ども」をかかげ、考える子ども、ねばりよい子ども、心ゆたかな子どもの育成をめざして教育にあたっております。

去る十月二十八日に県および町内の各教育関係者多数の訪問をいただきました。学校訪問の目的は福島県教育委員会の重点施策や指導の重点に基づき、大野小学校の教育の充実に上と具体的実践上の諸問題、ならびに授業の充実改善について研究協議することにあります。あいにく肌寒い雨降りの一日でしたが、先生方の熱心な指導の授業が展開されました。

訪問下さいました先生方からは本校がひとりひとりの児童の能力の伸長と、調和のとれた発達をめざし、教材内容を精選し、指導内容の重点をおき方に工夫を加えるなどにより、学校教育における指導活動の充実を図っている。大野小の子どもを少しでも伸ばしてやりたい情熱、責任ある活動が教職員にあらわれている。教育専門職としてのきびしい研修の中に、親和と協力の精神のもとそれぞれの持ち味を出して学校経営に参加し、きたえ補いあつて組織体となり、一丸となつて教育に取り組んでいる姿が見うけられる。教育環境についても努力している姿は非のうちどころがない、等々の好評をいただきました。これもひとえに役場、教育委員会、PTA、地域の方々のご支援ご協力があればこそ感謝いたしております。

学校は、子どもが喜んで通うような所であればなりません、毎日の学校生活に満足感を味わえる学校、人の気持を考へ、思いやりのある豊かな学校をつくっていくことが大切であると思ひます。これからも校長先生を中心に「子どもの心のふれあいを大事にする教育」、「価値あるものに感動する経験を与える教育」、「柔軟な思考を育て、創造力を引き出す教育」を大野小教職員が一致協力して、おしすすめてまいりたいと思ひます。

大小教頭 紺野喜弘

## 感想文に入選

### 大野小学校

昭和五十一年双葉地区青少年読書感想文コンクールにおいて、大野小学校では入選八名となり、特選児童は一年生の島かおりさんにままりました。

- 次に入選児童と特選作品をお知らせします。
- 特選 一年 島 かおり
  - 入選 一年 白戸 康也
  - 二年 久保田春美
  - 三年 武内かね子
  - 四年 志賀まゆみ
  - 五年 渡辺 英綱
  - 六年 大山 育美
  - 六年 鈴木 千春

#### 特選作品 「つりばしをわたれ」をよんで

「つりばしをわたれ」をよんで  
 ごうごうとしぶきをあげて、ながれているたがわのつりばし、せまくてながいながいつりばし、そのこわいつりばしをいつのまにかわたってしまったトッコちゃんわたしいまにもふじつるがきれそうなつりばしをわたることはとてもできません。トッコちゃんのほんとうのきもちは、山のサプちゃん、タケシくん、ミヨちゃんとおともだちになりたかつたのです。はじめこわくてつりばしをわたることができないので、とうきょうのじまんばなしをしてしまい、山のおともだちをおこらせてしまったのです。

ちゃんの中に、あずけられたトッコちゃんは、ともだちがなく、ひとりぼっちでさびしいまにちがつたとおもいます。

わたしもおかあさんのいないときは、とってもさびしいおもいをします。わたしのおかあさんはげんきでしごとをしています。びょういんのしごとなので、ときどきよるもしごとのときがあります。そんなよるは、おとうさんがいともさびしくてなきたいくらいです。わたしも、トッコちゃんのようにおかあさんとはなれてくらすようになったら、もつともつとさびしくなるとおもいます。ひとりではなをつんだり、ちようちよをおいかけたら、ことりのすをのぞいたりしてあそんでいたトッコちゃん、びょうきのおかあさんをおもいだして、山にむかつて、なんともなんとも「おかあさん」ってよんでいるうちに、やまびこさんとおともだちになりました。かすりをきたやまびこさんともだちになり、それから山のおともだちともなかなくなれて、わたしもうれしくなりました。

トッコちゃんのおかあさん、はやくびょうきがよくなるといいですね。わたしもおいのりしています。

#### (評)

——長崎源之助「つりばし」  
 わたれ、岩崎書店と友だちになれましたね。トッコちゃんによせたやさしい心づかいがにじみでいます。  
 担任 末水恵美子先生

## 皆様にお願い

大野町 教育委員会

バスを降りた生徒がすぐとび出した為、対向乗用車に、あやうくはねられそうになった例がありますので、ご家庭におきましては、



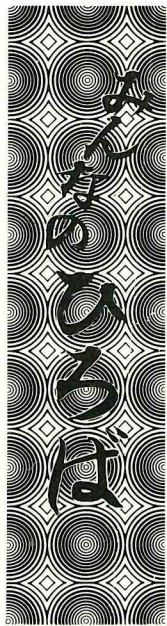
② バスの乗り降りには充分注意し、道路横断はバスが走り去ってから左右をよく確認して横断すること。

## スクールバス利用のお願い

① 毎日のバス停までの送り迎いを忘れないこと

昨年九月一日に、「大野町スクールバス運行協議会」が発足し、その時会長から町民の皆様にお願ひしましたことは、

その他となつて、運転手と添乗員は車内の安全と、車外での交通事故に万全の気を配っておる処であります。十一月月上旬にスクールバスを降りた生徒がすぐとび出した為、対向乗用車に、あやうくはねられそうになった例がありますので、ご家庭におきましては、



# 美しい大熊の四季

「鮭だー、鮭がのぼってきたぞおー！」男の大きな声が、川むこうにこだまする。バラバラッと男たちが、手に手にコン棒を持って川をめぐってかけ集まる。女がその後を追いかけて、子ども達まで走りまわると。静かだった川筋は、たちまちただならぬ活気につつまれる。川面は、海からのぼってきたおびただしい鮭の群れにキラキラと波立っている。

こんな書き出しだったでしょう。か、泉田川の鮭漁がはじまる頃になると、野上の松本幸一先生の「大熊町の縄文時代」という本の一節が思い出されます。その昔には大熊町を流れる熊川や夫沢川にもこのような情景が見られたのでしようか。

古くから人の住みついたというこの地方は、気候も温暖で豊かな自然に恵まれ、四季もごもに色々とその変化を楽しませてくれます。

ついこの間まで、たそがれの夫沢の空いっぱい飛びまわっていたムクドリの大群も、いつの間にか姿を消して、ひっそりと花の終わった秋の葉かけにマツムシ草のう

す青い花が咲いています。「秋の野に咲きたる花を指おりて、かきかぞうれば七草の花」ききょうやおみなえし、ふじばかま、それに萩やクズの花が、夫沢の野山に自然のまま美しく咲いて見せてくれます。

なんといっても心はずむ楽しい季節は、木々の若芽の萌え出る季節です。遠い阿武隈の山から「春一番」の強い突風とともに大熊には春が訪れます。大熊の桜の名所、三森山がお花見客でにぎわい大野駅前や、県原子力センター前の見事な桜が、いちどにパッと咲き出します。大川原の坂下ダムに桜の苗木を植えさせていたのだのは何年前のことだったか、やがてはダムの周辺が桜の名所となつて、春は花見、秋は芋煮会とにぎわうことでしょう。

春のおとずれをつけるウグイスは、夏の終わる頃まで、いつまでも美しいさえずりを聞かせてくれます。私は、野山を歩くことが好きで夫沢や、野上、石熊などをよく歩きます。いつのことでしたか山を歩いているとき、山仕事をしていた人から声をかけられ、何

を取りに来たのか聞かれたことがありました。私は「鳥の声」を取りに来たといつて、テープレコーダーを見せたこともありました。

同じ大熊のウグイスでも、野上と夫沢とではだいぶ鳴き方が違うこともわかりました。

カッコウや、ホトトギスの鳴く声、初夏のきれいに澄んだ空気のなかに響きわたって耳を楽しませてくれます。キジの鳴く声も、夫沢へ来てはじめて聞くことができました。

ワラビ、それにタラポの芽、シドキの葉、大根おろしによく合うアマタケや、ハツタケなどが、身近かな野山にヒヨッコリと顔を見せたりします。

早いもので大熊へ来てからもう十年になろうとしています。町の色々な人々と接してきて、この地方の人情のあたたかさにも触れてまいりました。

美しい自然にめぐまれた大熊の四季が、長い長い歲月を経て、この地方の豊かな人情風俗をそだててきたのでしよう。

私にとりましては、ここは第二のふるさとになっております。人情の花咲く里、大熊はこれからもこうした美しい自然にはぐくまれながら、よりいっそう明るい発展をつづけていくことでしょう。

## 俳句

- 梅雨冷や喪服に涙限りなく  
曾孫迎え笑顔の花や月見草  
梨の実のぎっしり梅雨の雨烈し  
遠近の郭公の声空に滲む  
中山 安子
- トオキビの花咲き揃い梅雨の明け  
ヒグラシのやまず風湧く松林  
菅野 ミヨ
- 梅雨晴れの風心地よし葉のゆらぐ  
病む友の梅雨晴のその笑顔かな  
結城 千代子
- もやの中おもたき声よ山鳩は  
梔子の香り漂ひ旅おわる  
渡辺 博之
- 一陣の風ありがたし下刈れる  
ダンブカー過ぎたるあとの蟬しぐれ  
永井 善子
- うぐいすの声に園児の笑顔かな  
田草採りそよ吹く風に腰のばす  
渡辺 政美
- 蝶たちし枝にはあらぬ萩こぼれ  
いま刈られたる稲の香に遇ひにけり  
高野 昭二
- 鈴虫を探す娘に手の灯を消しぬ  
流燈の芥に縋りつつ行けり  
高野 昭二

## 紙くずを拾った子ども

先日相馬市に会合があった。時間があったので公園を散歩した。店で小学二年生くらいの子供が氷菓を買った。彼は包紙をとってポンとすてた。私は彼に言った「紙をすててよいの。」

「だってみんなすてているじゃないの。」

「紙をすてるとはよいこと。」

彼は自分のすてたのを拾い、他のものも拾って屑かごに入れた。「おお、いい子だ。どここの学校」「小だ。オジサンはどこ」「大熊町だ。昔は相馬の国で一番南なんだ。君とも親類なんだよ。」

彼はわかったかどうかは別としてきげんは悪くなかった。

とかく私達はひとの子供は何を

しようと口を出さない。下手に口を出すとみつかれる。子供だつて話せばわかる者も少くない。大人はもっと大胆になりたいものである。  
(元教員)



# 教え子の ことばから

過日、中学校で三年間受持った生徒たちの中で、東京都内とその近辺に在住する者たちで、四十二才の「厄流し」を兼ねたクラス会に招待されて出席した。

或は経営者として、女子は一家の主婦として希望に燃え活動している姿を眼のあたりみて、たのもしく感じた。

それ以上に、私を喜ばしてくれたことは、

十六年振りに逢った教え子たちの中には、頭髮に白いものが目立つ者、すっかり薄くなった者もいたが、立派に成人し、たくましい社会人となり、職場の中堅として、

オ一に、「先生は優しいところがあつたが、きびしかった。でも、このきびしさが今役立っている。きびしさの尊さを身につけてくれたことに感謝している」というこ

●金谷 下野上の地名で今  
は金谷平となつたが以前  
は北金谷、南金谷であつ

島原に多いと聞く。県道をはさ  
んで北が腰蒔、南が下原(昔は  
原)エツチな字名である。

●鮎沢 焼山から町にかけ  
ての字名で今は大野の一  
部である。昔この辺に余

●判官 野上の地名。判官に住ん  
でいる人でも意味の知らない人  
もいる。ナゾナゾではないが、  
その心はとく苦勞をする。

●大谷地、広谷地 双農高より東  
の地名、この辺一帯は昔は湿地  
であつた。昔は草刈場であつた

●野原 旧熊町中附近の字名で、  
そのものズバリ。

●対面場、小良浜にある地名で、  
昔、オラノハマだ、オラガハ  
マだと争つた時、相馬の殿様

●野原 旧熊町中附近の字名で、  
そのものズバリ。

●腰蒔、下原 野上の地名、  
もとは腰巻と書いたそう  
な。とかくこの地名は福

●坂下 大川原と野上にある。  
坂の下にある部落で交通上重要  
な地点であつた。大川原の坂下  
は大川原を通り中通りになる表  
街道の入口であつた。今はダム

(池田徳治氏談)

(大和田武夫氏談)

とであつた。  
オ二は、「あたりまえのことを、  
あたりまえにできる人となれ」と  
いう教えを頭に入れ努力している  
いま、中・高校生を持つ父親、母  
親となつて、わが子にも伝え、実  
行させているということである。

このクラス会に、大学を出た者  
は顔をみせなかつた。中学校、高  
校を出て上京、就職した者ばかり  
だつた。それだけにこの教え子た  
ちから、こんな言葉を聞けて嬉し  
かつたのである。そして、  
二十六年前、私の生徒に論し、実  
践させたことが間違つたことでは  
なかつた。ずっとこれを守り、生

活の中に生かされていることが、  
なにより嬉しかつた。  
雨の中全員で上野駅まで来て送  
つてくれた。「いいよ」と断つた  
が、「先生、あたりまえのことだ  
から！」と笑つて送つてくれた。  
教え子たちの成長を祈念しながら  
別れたが、車中ひとりひとりの顔  
を思い浮かべながら喜びにひたつて  
いた。

大川原 志賀 隆文

## 図書あんない

この程公民館の図書室に新刊図  
書(昭和史の天皇、満州帝国、そ  
の他)が入りました。また、県図  
書館のあづま号より、幼稚園児向  
小中学生向、成人向図書をたくさ  
ん借受け皆さまのおいでをお待ち  
しております。

特に、近日中には新刊図書三百  
冊ほど入りますので、小中学生の  
冬休みや、正月休みを利用し、是  
非一度公民館の図書をご覧になつ  
て下さい。

なお、今回借受けた図書の一部  
を紹介しします。

### ◎幼稚園児、小学生向図書

ピッケと赤目のバイキング。エ  
ミちゃんの世界探検。はじめまし  
てママ。野鳥の四季。びりつかす  
の子ねこ。赤ギツネのおやこ。い  
っすんぼうし。カエルの世界。

### ◎一般向図書

長生き八十九のヒント。母のな  
い子と子のない母。愛と死の記録  
二十歳の原点序章。るすばん先生  
水原の旅。日本人民全滅。

## 編集後記

春の花を代表するものは桜だと  
すれば、秋の花を代表するものは  
菊である。菊の花は色も多く形も  
種々あるが忘れてならないのはそ  
の清香である。色のうちでは黄菊  
が最も気高くしかも豊麗である。  
気品の高い点では白菊である。  
その白さに接した時、心も洗われ  
る程である。才時記には菊につい  
てこんな風に記されている。

「上野はおいらのこころの駅だ  
くじけちゃいけない人生は……」  
今月二十二日は大野駅が開設され  
て七十二周年とか、あの二条の鉄  
路がマイカーの普及により地域の  
人々の心から遠ざかりゆくとき、  
大野駅について特別取材して下さ  
った方に改めて敬意を表したい。

公民館報の生みの親であり育て  
の親である前館長吉田農夫雄氏が  
この三日、町の特別功労者として  
特別功労賞を受賞された。館報編  
集に携はる者としてこの上ない喜  
びである。館報も九十三号を数え  
るまでは幾多風雪に耐えてきたこ  
とと思ふ。ここに氏の功績を讃い  
館報の成長と無事を祈るものであ  
る。

館報の原稿をお寄せ下さい。要  
領は四百字詰原稿用紙一枚程度で  
1主張、産業、教養、文芸に関す  
るもの何でも結構です。

2政治的な色彩をもたないもの、  
個人非難に属する抽象的でない  
もので常に建設的なもの。